

PC コンフィギュレータソフトウェア

STCFG バージョン 1.2

取扱説明書

目次

1. 準備	3
1.1. 対応機器	3
1.2. 動作環境	3
1.3. インストール	3
2. 操作	4
2.1. 起動	4
2.2. 言語設定	4
2.3. COM ポート選択	4
2.4. 設定	5
2.4.1. アップロード（読み出し）	5
2.4.2. ダウンロード（書き込み）	5
2.4.3. ファイルに保存	5
2.4.4. ファイルを開く	5
2.5. モニタ	5
2.6. オートセットアップ	6
2.6.1. 実行	6
2.6.2. 中止	6
2.7. 診断情報	7
2.7.1. 読出し	7
2.7.2. 開度位置の割合データ	7

1. 準備

1.1. 対応機器

本ソフトウェアでパラメータ編集可能な機器は以下の通りです。

機器形式	対応 Ver.
MSP10	1.0
MRP10	1.1
PSP10	1.2

それぞれの機器のパラメータ編集は、本ソフトウェアのバージョンが「対応 Ver.」の欄に書かれたバージョン以上で対応しています。

1.2. 動作環境

本ソフトウェアは以下のような環境で動作します。

PC	IBM PC 互換機
OS	Windows 10 (32bit、64bit)、Windows11 (注) 全ての環境での動作を保証するものではありません。
CPU	Microsoft 社が規定する OS の動作保証をしている性能以上
メモリ	
ソフトウェア	Microsoft .NET Framework 4.5～4.8 がインストールされていること
通信ポート	USB 2.0 以上

機器と PC の通信ポートを接続するために、下表のコンフィギュレータ接続ケーブルが必要です。

機器形式	接続ケーブル
MSP10	USB Type-C
MRP10	USB Type-C
PSP10	USB Type-C

1.3. インストール

- 1) 弊社 Web サイト内の「ダウンロード>ソフトウェアダウンロード」から STCFG を選択し、圧縮ファイルをダウンロードしてください。
- 2) ダウンロードした圧縮ファイルを展開し、STCFG フォルダ内の setup.exe または STCFG_Setup.msi のいずれかを実行し、画面表示に従ってインストールを行ってください。特にご指定が無ければ「Next」をクリックして進めていくとインストールが完了します。
- 3) 正常にインストールされると、PC のプログラムメニュー内に M・SYSTEM>STCFG が作成されます。

※本ソフトウェアを使用するためには、Microsoft .NET Framework 4.5～4.8 がインストールされている必要があります。通常は標準でインストールされていますが、インストールされていない場合は Microsoft の Web サイトよりダウンロードし、インストールしてください。

2. 操作

2.1. 起動

PC のプログラムメニュー内の STCFG を起動してください。以下のような画面が表示されます。

設定項目	値
機種タイプ	MSP10-1x
タグ	
上昇位置 (mm)	0.00
下降位置 (mm)	10.00
不感帯 (%)	0.1
再起動制限タイム (秒)	0.1
上昇信号位置 (%)	98.0
下降信号位置 (%)	2.0
動作速度	10
オートセットアップタイプ	下降側シールスプリング
下降側シールスプリング押込量 (mm)	0.1
上昇側シールスプリング押込量 (mm)	0.1
ストローク指定距離 (mm)	10.0
入力選択	アナログ入力
ノードアドレス	1

モニタ項目	値
アナログ入力 (%)	0.0
開度位置 (%)	0.0

2.2. 言語設定

言語表示を切り替えたい場合は「言語」をクリックし、プルダウンリストから英語または日本語を選択してください。

2.3. COM ポート選択

PC と機器を接続ケーブルでつなぎ、機器の電源を入れます。接続ケーブルは機器の電源を入れた状態で抜き差ししても構いません。

「(COM ポートを選択してください)」をクリックし、プルダウンリストから「USB Serial Port (COMx)」を選択します。

2.4. 設定

2.4.1. アップロード（読み出し）

「アップロード」ボタンで機器から各設定と機器バージョンを読み出します。

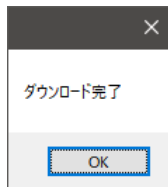
2.4.2. ダウンロード（書き込み）

1) PC 上で設定を編集します。各設定項目の詳細については、機器の取扱説明書を参照してください。

2) 「ダウンロード」ボタンで設定画面の内容を機器に書き込みます。

ダウンロードする際は、機器の SW-8 を ON（マニュアルモード）にしておく必要があります。

正常にダウンロードされると以下のようなメッセージウィンドウが出ますので、OK ボタンを押して下さい。



2.4.3. ファイルに保存

「ファイルに保存」ボタンで設定画面の内容を設定ファイルとして PC に保存します。

2.4.4. ファイルを開く

「ファイルを開く」ボタンで PC 上の設定ファイルを開き、設定画面に展開します。

2.5. モニタ

「スタート」ボタンで機器のアナログ入力状態や開度位置のモニタを開始します。モニタは SW-8 の状態に関わらず行えます。

「ストップ」ボタンでモニタを終了します。

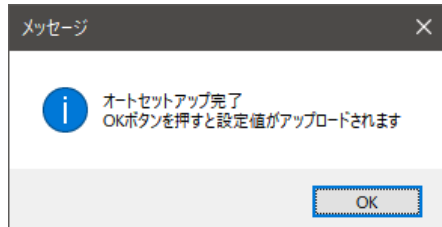
2.6. オートセットアップ

2.6.1. 実行

「スタート」ボタンで機器のオートセットアップを実行します。機器が動作しますのでご注意ください。
オートセットアップを実行する際は、機器の SW-8 を ON（マニュアルモード）にしておく必要があります。

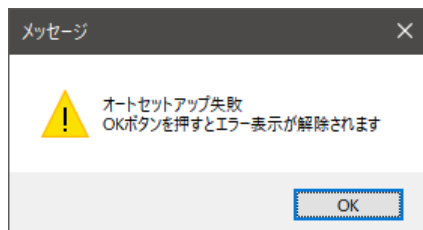
オートセットアップ完了

以下のようなメッセージウィンドウが出ますので、OK ボタンを押して下さい。オートセットアップにより更新された設定が機器からアップロードされます。



オートセットアップがエラーで終了

以下のようなメッセージウィンドウが出ますので、OK ボタンを押して下さい。機器の ALARM ランプが点滅から消灯に変わります。



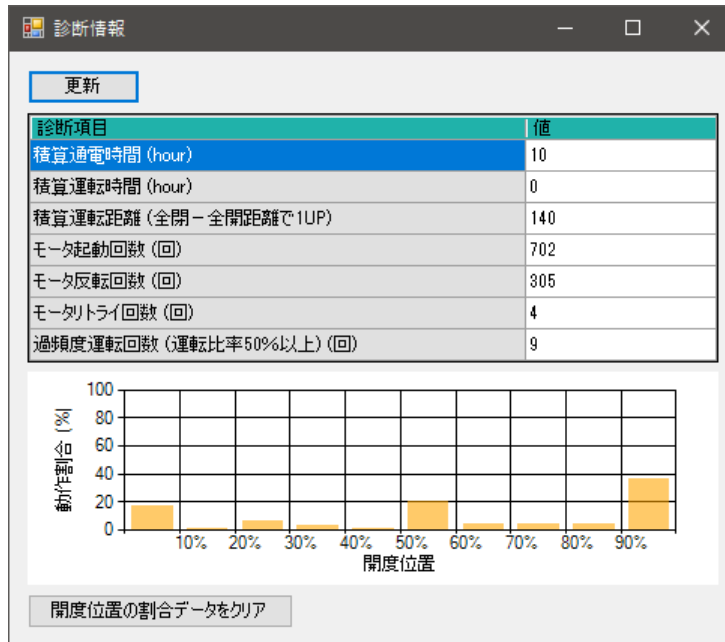
2.6.2. 中止

オートセットアップ中に「キャンセル」ボタンを押すと、オートセットアップを中止します。

2.7. 診断情報

2.7.1. 読出し

「アップロード」ボタンで次のようなウィンドウが立ち上がり、機器から診断情報を読み出します。
各診断項目の詳細については、機器の取扱説明書を参照してください。
元のウィンドウに戻る際は診断情報ウィンドウ右上の×印を押して閉じてください。



2.7.2. 開度位置の割合データ

グラフで表示している内容は開度位置の割合データです。上昇位置設定（100%）ー下降位置設定（0%）に対して、どの開度位置で主に使用されているかを示しています。

「開度位置の割合データをクリア」ボタンを押すと、これまでの開度位置情報をクリアし、その時点から新たに計測を開始します。その他の診断情報（積算通電時間～過頻度運転回数（運転比率 50%以上））についてはクリアされません。